

今 交通まちづくりを考えよう

■ 嵐山町立小中学校適正規模等検討委員会より小中学校の適正規模の意見が提出されました。 提案要旨です

小中学生・2015年
1254人



小中学生・2035年
694人

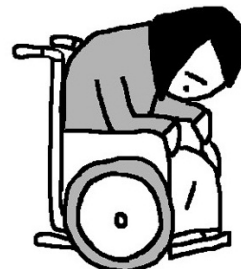
- ① 今後の少子化を考えると、嵐山町に小中一貫校を新設することが望ましい。
 - ・1学年複数学級でクラス替えができること
 - ・中学では、全教科に専門の先生を配置できるように
- ② 小中一貫の新しい学校の場所は、菅谷小・菅谷中の敷地
- ③ 統合の時期はできる限り早期であること
- ④ 遠距離の通学は、スクールバスの導入が必須。

菅谷小中学校までは、北部地域の小中学生は遠すぎます。

■ 障害のある人のための有償移送運送のNPOの事業が終わりました。

嵐山町だけでなく、東松山市でも川越市でも移送サービスのNPOがやめています。

- ・これから、需要が大きくなるのになぜ??
- ・埼玉県の生活サポート事業で、事業者に県と町は3分の1補助。
- ・が、移送サービスだけは赤字が続き経営が難しいこと
- ・運転者も高齢になっていることが、要因らしいです。



■ 嵐山町では、今年度は嵐山町外の事業者に協力をお願いしています。福祉タクシーの拡大で対応していきます。

高齢者による自動車事故が続いています。

■ 高齢化で、自動車運転をあきらめざるを得ない

嵐山町は、南北に細長いので、買い物・医療・趣味には自動車移動が必要です。

■ 自動車の運転をしないと 家での引きこもりが多くなります。

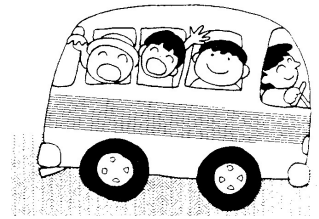
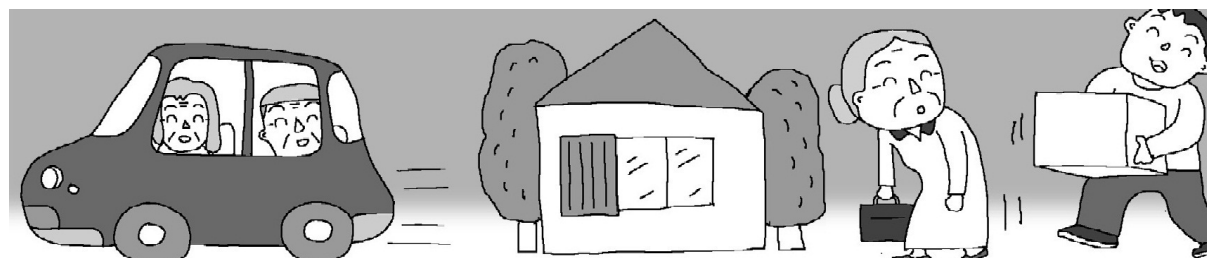
引きこもりが続くと、介護保険を利用する状況にならざるを得ません。

■ そうすると介護保険会計が、赤字になる

介護保険料を上げざるを得ない

みなさんの生活が苦しくなる…国家財政がもたない……悪循環

■ これをたちきるためには、交通まちづくりが今、必要です。



市街地に医療機関やお店が集中しています。運転免許のない高齢者・障がいのある人、2歳までの子どもを育てている人には、タクシー券が公布されるのですが自動車運転ができない人にはきびしい現実です



考えてみよう「嵐山町の足の確保！」

町民版「交通まちづくりを考える」

- ・障がいのある人・高齢者の移動について
- ・こどもの足の確保について
- ・町内循環バスの新設は、財政的には?

講師 笹沼和利「(埼玉県移送サービスネットワーク事務局長)」

日時・6月1日2時から ネット研修棟

